

南アフリカ 品薄の海外市場が早生の柑橘類を歓迎

[FreshPlaza](#) 2025年5月12日

リンポポ州ホドスブルート地域にあるソレイユグループは、同州内に柑橘類の農場と梱包施設を所有している。同社は、サプライチェーンが南半球に切り替わると、南アフリカで最も早く輸出を開始する企業の1つである。そのためトルコ、スペイン、エジプト、イスラエルからの最後の果実と市場で直接競合する。

サンフェッド社の創設者兼執行役員であるヤコブス・ファンスターデン氏は、今年は、収穫量が減少した中国をはじめ多くの北半球の生産国が早期に出荷を終了したため、その競合は最小限に抑えられており、新シーズンを開始するに当たって素晴らしい状況にあると話す。

同氏は、「特にヨーロッパからは、我々(リンポポ州)の約1カ月後に東ケープ州の収穫が始まるまでのシーズン初期のレモンについて多くの問い合わせがあった」として、ヨーロッパでは南アフリカ産のユーレカレモンがスペイン産のヴェルナ種よりも好まれていると述べた。

中東は従来からシーズン序盤のレモンの需要が強い市場であるが、供給過剰から数カ月で暴落して問題になったことが何度もある。同氏の意見では、レモンに関しては、市況はおそらく6月までに下がり始めると見られる。

同氏はまた、「ロシアは弊社の柑橘類の購入を毎年増やしている。ロシア市場は弊社にとってより大きく、より重要な市場になりつつあり、価格は安定してきている。我が国とロシアとの関係が、ロシアを将来に向けた重要な市場にしていると思う」と述べた。

グレープフルーツの消費への投資 グレープフルーツは、市場に過剰供給しないように生産者間の慎重な調整が必要であり、柑橘類の中で管理が最も難しいものになっている。実際、グレープフルーツの生産者と輸出業者の間の協力は、おそらく南アフリカの果実輸出では他に例のないレベルのものである。

グレープフルーツに対する消費者の需要は多くの市場で低迷しており、柑橘類業界は、5月に予定されている販促キャンペーンが、多くの市場で、特に若い消費者のグレープフルーツ需要を喚起することを期待している。

何年か前には、南アフリカのグレープフルーツの最大の買い手の1つは日本であったが、去年は100万箱にも届かなかった。高齢化が進み、それに伴いグレープフルーツの需要が激減した。また、グレープフルーツは、従来型(ブレイクバルク)の船で日本へ輸送されており、これは最も費用のかかる海上輸送方法である。

この点で韓国が日本にとって代わった。ファンスターデン氏は、「韓国は日本よりある程度安定しているが、それでもアジアの市場は需給関係によって常に上下する。彼らは供給過剰に非常に敏感だ」と話す。(中略)

オレンジ果汁濃縮物の価格がグレープフルーツの栽培面積を侵食 南アフリカのグレープフルーツの出荷量は、生産者が果樹園を維持しているため、近年安定している。ファンスターデン氏は、去年の歴史的に高いオレンジ果汁濃縮物の価格に対応して、グレープフルーツ果樹園の廃止が加速すると予想している。

果汁濃縮物の世界的な入手可能性は高まっており、果汁濃縮物の価格は昨年の高値を繰り返すことはないと思われる。2024年に南アフリカが大きな恩恵を受けたこの利益を共有しようと、エジプトでは多くの輸出業者や生産者が既に果汁工場を設置しているか、設置を計画している。

ファンスターデン氏は、エジプトが果汁市場に関与するようになったことは悪いことではないと考えており、「2級品のオレンジを搾汁用に仕向けると言う選択肢があることで、多くの低い等級のエジプト産果実が市場から排除され、特に年の後半に向けて1級品の果実のチャンスが増える。」

ソレイユシトラス社の果実の大部分は、植物検疫上の理由からリスクの高い出荷先となる可能性があるヨーロッパ向けである。「弊社では、常に果樹園で何が起きているかを確実に把握している。我々は自分たちの園地をよく知っている。リスクを減らすため一部の園地の果実は決してヨーロッパ向けに梱包しないし、ヨーロ

ツパ向けの園地は精査している。毎週、調査レポートがまとめられ、病害虫の出現の兆候を少しでも見つけると、直ちに細心の注意を払っている。」

カンキツ黒星病の防除に長年使用してきた特定の殺菌剤など、危険と見なされる化学物質の使用許可が毎年減る中、業界の研究機関である柑橘類調査インターナショナルは、来シーズン使える代替品を見つけるために昼夜を問わず取り組んでいる。同氏は、「我々は年々、生物的防除がうまくなっている。これは、総合的病害虫管理の非常に重要な側面である。一瞬たりとも果樹園から目を離すことはできない。」

出荷に関して同氏は、インド洋側の隣国であるモザンビークでの最近の政情不安のため、中部・東部地域の柑橘類に関し、当面は同国のマプト港からの出荷を行わないことを決定したと述べた。(以下省略)

執筆者： キャロライズ・ヤンセン

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

(関連記事) 中東市場は南アフリカ産オレンジの入荷に期待

[FreshPlaza 2025年5月8日](#)

スペインとエジプトからの供給が大幅に減ったことで、オレンジの不足が中東市場に影響を及ぼしている。

グローバルスターグループの調達責任者であるカシフ・シャハザード氏によると、今年は早生の南アフリカ産オレンジの到着が大いに待ち望まれている。この輸入業者は、「中東の柑橘類市場ではいくつかの要因が柑橘類の不足に繋がり、2025年は奇妙な状況になっている」と報告している。(以下「」は同氏の話)

「その主な理由の一つは、従来からこの地域の柑橘類産業に大きく貢献してきたエジプトからの供給の減少である。これは、エジプトにおける果汁工場の役割が拡大して需要の構図が変わり、さらに市場の動向に影響を与えているためである。エジプトからの供給の減少は、スペイン産ネーブルオレンジの不確かな状況によりシーズン後半の競争がエジプトにとって非常に有利になっているにもかかわらず発生している。」

「通常、スペインは第20週(5月中旬)まで中東市場への供給を続けるが、今年はスペインの天候状況と輸出用果実の品質が悪いため、出荷シーズンは第14週(4月初旬)で終了した。この予想外の異変により、エジプト産のネーブルオレンジとバレンシアオレンジは貿易条件が改善して需要が安定し、同国の出荷シーズンの終わりまで市場での強みを取り戻すことができた。」

この輸入業者によると、通常は、南アフリカ産の早生のオレンジが中東市場に参入することは難しいが、今年は状況が異なる。

「従来は、市場にかなり大量の柑橘類が投入され、早生の南アフリカ産オレンジにとって困難な状況となっていた。南アフリカ産のレモンが2025年には力強いスタートを切り、残りの柑橘類シーズンに前向きな状況を作り出しており、既に従来とは逆の傾向が見られる。柑橘類の出回り状況をめぐる世界的な傾向を踏まえると、南アフリカ産の柑橘類、特にオレンジは、安定的で繁栄する年を迎えるものと楽観視している。」

「このシナリオは、業界にとってはここ数年なかった大きな転換点である。その理由は様々であり、果汁工場の出現、気候変動、世界的な物流問題などにより不確実性が増し、柑橘類の貿易パターンが予想外の形で再定義される可能性がある。青果物業界はますます予測不能になり、これからのシーズンにどんな驚きがあるのかわからない。」

「今のところ、サウジアラビア市場、さらに言えば中東市場全体が、南アフリカ産ネーブルオレンジを強く待ち望んでいる。南アフリカ自身からの供給過剰が起きない限り、早生のネーブルオレンジだけでなく、その後の柑橘類品種にも良い収益を期待している。」

執筆者： ユーネス・ベンサイド

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)